

公表

事業所における自己評価総括表

児童発達支援

○事業所名	ASKA club 壬生		
○保護者評価実施期間	2026年1月14日		～ 2026年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○従業者評価実施期間	2026年1月14日		～ 2026年1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「環境・体制整備」 お子さま一人ひとりの特性や発達のペースに合わせた環境づくりを大切にしていることが、私たちの強みです。これからも、見て分かりやすい工夫を取り入れながら、安心して心地よく過ごせる環境をさらに整えていきたいと考えています。	毎日の清掃・消毒を徹底し、清潔な環境を保っています。活動に集中できるよう、おもちゃを別室に保管するなど空間を工夫しています。トイレマークの掲示や玄関スロープの設置など、安全面やバリアフリーにも配慮しています。	保護者の皆さまのご意見や職員の振り返りを活かしながら、環境や視覚支援の見直しを続けます。安全点検や研修を通して職員の専門性を高め、より安心できる環境づくりを進めていきます。
2	「関係機関や保護者との連携」 保護者の皆さまや関係機関と連携し、お子さまを中心に支援を行っていることが強みです。今後も情報共有を充実させ、支援の方向性についてより深く理解し合える体制を目指します。	「HUG」を活用して活動の様子や写真を共有しています。送迎時にはその日の様子を丁寧にお伝えし、信頼関係づくりを大切にしています。必要に応じて関係機関とも情報共有を行っています。	面談や情報交換の機会を増やし、双方向のやり取りをより大切にしていきます。ICTの活用と職員間の連携を深め、切れ目のない支援体制を整えていきます。
3	「非常時等の対応」 災害や事故、感染症、虐待防止などに備えた体制づくりを続けていることが強みです。今後もさまざまな状況を想定し、実践的な対応力を高めていきます。	具体的な場面を想定した研修や訓練を行っています。法人内で事例を共有し、虐待防止委員会でも継続的に話し合いや研修を行っています。	定期的な訓練とマニュアルの見直しを続け、情報共有を徹底します。非常時にも安全を最優先に行動できる体制をさらに強化します。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「業務改善」 日々の相談や共有は行っていますが、業務改善の取組をより分かりやすく整理し、仕組みとして整えることが課題です。	日々の支援を優先する中で、改善内容の振り返りや検証を記録として残す機会が十分でないことが要因の一つです。外部評価についても今後検討していきます。	研修や話し合いを継続しながら、改善の記録と振り返りの仕組みを整えます。必要に応じて外部の意見も取り入れ、支援の質の向上を目指します。
2	「適切な支援の提供」 支援計画は共有していますが、役割分担や支援内容をより明確にし、さらに一貫した支援体制をつくるのが課題です。	日々の情報共有や見直しは行っていますが、情報を整理し、支援の重点を分かりやすくすることが継続的な課題となっています。	支援計画に基づく役割分担を明確にし、共有方法を整えます。継続的な振り返りを行い、お子さまの発達や興味に合わせた支援をさらに充実させます。
3	「保護者への説明等」 日々の様子はお伝えしていますが、支援方針や全体の取組をまとめて分かりやすく説明する機会を増やすことが課題です。	送迎時の説明や「HUG」、SNSで発信していますが、全体的な支援内容を計画的にお伝えする機会を確保していくことが課題です。	面談や説明の機会を計画的に設け、より分かりやすい情報発信に努めます。必要に応じて保護者会の開催も検討していきます。